

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	経営分析（Financial Statements Analysis）		
ナンバリングコード	E30614	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 専門科目 / 応用レベル 会計ファイナンス
単位数	2	配当学年 / 開講期	3 年 / 後期
必修・選択区分	選択：経営経済学部 コース選択必修：情報メディア学科 情報コミュニケーションコース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	E013451	クラス名	-
担当教員名	長崎 浩介		
履修上の注意、 履修条件	1. グループワークにより授業を進めます。メンバーに迷惑をかけないように、毎回必ず出席してください。 2. 毎回相当な量の課題を出題します。提出期限（原則として次回授業）を厳守してください。 3. 毎回電卓を持参してください。		
教科書	教科書を指定しません。 配布資料（プリント）により授業を進めます。		
参考文献及び指定図書	特に指定しません。		
関連科目	簿記入門、簿記原理、財務諸表論、会社簿記、原価計算論A／B、管理会計論A／B		

○基本情報		
授業の目的	この講義は、株式会社ジョイフルの経営危機からV字回復までの実例を分析することで、企業分析の実践知を深めることを目的とします。学生は「企業分析探偵」として、ストーリー型シミュレーションを通じ、実際の財務データや公開情報を活用しながら、財務分析、経営戦略立案、戦略実行の効果検証までの一連のプロセスを実践的に学びます。自身の提案と実際に行われた戦略を比較検証することで、多角的な視点から経営判断の本質を理解し、実社会で通用する分析力と課題解決能力を養います。 授業はグループワークで進めます。毎回課題を課すほか、授業時間外の動画視聴による自己学習を必須とします。決して楽な授業ではありません。 意欲のある学生の参加を期待します	
授業の概要	この講義では、ファミリーレストラン「ジョイフル」をケーススタディの対象とし、実際の財務データと公開情報に基づき、経営危機からV字回復までの道のりを追体験します。学生は「企業分析探偵」として、2つのタームに分かれたミッションに取り組みます。 第1タームでは、ジョイフルの危機の原因を特定し、その上で独自の再建プランを立案・提案します。 続く第2タームでは、ジョイフルが実際に行った経営再建策を分析し、自身の提案と比較検証することで、戦略の有効性や経営判断の妥当性を深く考察し、企業分析の実践知を深めます。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」
	(3) アクティブ・ラーニング	「該当なし」
地域志向科目	該当しない	
実務経験のある教員による授業科目	民間企業（製造業）において経理事務に従事 地方自治体において監査及び協同組合検査等の事務に従事	

○成績評価の指標		○成績評価基準（合計100点）		
到達目標の観点	到達目標	テスト （期末試験・中間確	提出物 （レポート・作品等）	無形成果 （発表・その他）
【関心・意欲・態度】	グループワークへ積極的に参加するとともに、授業で課される課題を期限までもにれなく提出すること			30点
【知識・理解】	財務諸表分析に用いられる指標及びその理論的背景を理解していること		20点	
【技能・表現・コミュニケーション】	財務諸表分析を通じて、企業の経営状態及び将来性等を説明できること		30点	
【思考・判断・創造】	財務諸表分析を通じて、企業の経営状態及び将来性等を理解できること		20点	

○成績評価の補足（具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法）
授業参加への意欲・態度（30点）及び毎回の授業で出題する課題（70点）により評価します。期末試験は実施しません。2回を超えて欠席（認定出席となるものを除く。）した者には単位を認定しません。課題へのフィードバックは、次回以降の授業中に行います。

○その他
授業内容に関する質問をいつでも受け付けます。担当教員まで気軽におたずねください。

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	経営分析（Financial Statements Analysis） 長崎 浩介	授業コード	E013451
学修内容				
1. ストーリー型シミュレーション開始・財務諸表の基礎				
この回では、ストーリー型シミュレーション「ジョイフル財務健全化プロジェクト」を開始し、「企業分析探偵」としての役割を設定します。グループワークを通じて、企業名を伏せた財務データから業態を推定し、ビジネスモデルと財務構造の関連性を分析します。店舗ビジネス特有の財務特性を理解し、ジョイフル分析に向けた強固な分析基盤を構築することが目標です。財務諸表の基礎を確認しながら、実践的な企業分析の第一歩を踏み出します。				
予習	株式会社ジョイフルの企業概要を各自で調べます。		約2時間	
復習	授業内で指示します。		約2時間	
2. 第1ターム開始・財務分析の基礎理論				
第1タームが本格的に始動し、「2019-2021年のジョイフルの業績落ち込み」を分析するミッションに取り組みます。財務三表の相互関係や探偵的な読み解き方、異常値を発見するための分析フレームワークを学習。坪効率や人時売上高等、店舗ビジネスに特有の分析ポイントも習得します。グループワークでは、ファミリーレストラン業界の競合他社と比較しながらジョイフルの基本的な財務分析を行い、今後の詳細な危機分析に向けた理論的基盤を構築します。				
予習	授業内で指示します。		約2時間	
復習	授業内で指示します。		約2時間	
3. ジョイフル5年間概観・危機分析の準備 ～企業分析探偵の冒険が始まる～				
ジョイフルの2019年から2024年までの5年間のストーリーライン、「好調から危機、そして回復へ」を概観します。この期間における売上高、営業利益、自己資本比率といった主要財務指標の劇的な変動をグループで分析し、危機の兆候を特定します。時系列分析や要因分解分析といった危機分析に不可欠な手法を習得し、実践を通じて異常値の検出方法を理解します。本講義の循環学習モデルを説明しながら、次の本格的な危機分析に向けた準備を整えます。				
予習	授業内で指示します。		約2時間	
復習	授業内で指示します。		約2時間	
4. 企業分析理論・外部環境vs内部要因				
企業分析において、外部環境要因と内部経営要因を分離して分析する重要性を学びます。講義では、外部環境分析、内部経営分析、競合比較分析といった企業分析理論の基礎を習得します。グループワークを通じて、コロナ禍という外部要因がジョイフルに与えた影響と、ジョイフル固有の内部要因を切り分けて特定します。競合他社との比較分析も行い、コロナ禍だけでは説明できないジョイフルの構造的な問題を深く掘り下げ、今後の分析の方向性を明確にします。				
予習	授業内で指示します。		約2時間	
復習	授業内で指示します。		約2時間	
5. 第1ターム実践①「2020年危機」の徹底分析				
第1タームの実践分析として、「2020年にジョイフルで何が起こったのか」を徹底的に分析します。グループワークでは、特別損失（減損損失、店舗閉鎖損失引当金）の内訳を詳細に分解し、その妥当性を検証。さらに、売上減少率や固定費負担の重さといった営業面の悪化要因を同業他社と比較分析します。これらの分析を通して、「なぜジョイフルは他社よりも深刻な打撃を受けたのか」という本質的な問いを深掘りし、ジョイフルが抱える構造的な脆弱性を発見・整理します。				
予習	授業内で指示します。		約2時間	
復習	授業内で指示します。		約2時間	
6. 第1ターム実践② 深層要因を整理				
ジョイフルの経営悪化の背後にある深層要因を体系的に整理します。オンデマンド動画で学んだ深層要因分析の手法を活用し、グループワークでは2021年の継続的な業績悪化から、店舗立地の脆弱性、固定費構造の硬直性、デジタル対応の遅れといった外的・内的要因を抽出します。これらの要因の相互関係と影響度を可視化する「要因関連性マップ」を作成し、最も優先すべき課題を特定。根本的な問題構造を深く理解し、次の対策立案の準備を進めます。				
予習	授業内で指示します。		約2時間	
復習	授業内で指示します。		約2時間	
7. 第1ターム実践③ 経営アクション提案				
第1タームの集大成として、「もしあなたが経営者ならどうするか」をテーマに、ジョイフルが2021年時点で取るべき具体的な経営アクションを提案します。経営アクション立案の手法を学び、グループワークでは緊急対策としての店舗戦略、コスト削減策、財務改善策を立案。さらに、構造改革として事業モデルの変更や競争力強化策も設計します。これらの提案を統合し、財務効果予測や実行スケジュールを含む「ジョイフル救済プラン」を完成させ、実践的な戦略立案能力を養います。				
予習	授業内で指示します。		約2時間	
復習	授業内で指示します。		約2時間	
8. 第1ターム成果確認・第2ターム導入				
第1タームで各グループが策定した「ジョイフル救済プラン」の成果発表を行います。グループ内での最終打ち合わせを経て、それぞれのプランを全体に共有し、教員からの講評を受けます。これにより、これまでの分析と提案のプロセスを振り返り、学習成果を確認します。その後、第2タームの導入オリエンテーションを実施し、「実際にジョイフルは何をしたのか？」という「答え合わせ」のミッションを説明。自身の提案と実際の戦略を比較検証する次のステップへ向けた準備を整えます。				
予習	授業内で指示します。		約2時間	
復習	授業内で指示します。		約2時間	

○授業計画	科目名 担当教員	経営分析（Financial Statements Analysis） 長崎 浩介	授業コード	E013451
学修内容				
9. 第2ターム開始・実際の回復戦略分析				
第2タームが始まり、ジョイフルが実際に行った回復戦略の「答え合わせ」を行います。まず、実際の回復戦略の概要と第1タームで特定した危機要因との関連性を確認します。グループワークでは、2022年から2024年までの有価証券報告書を読み解き、FC制度導入、外部販売強化、デジタル化推進、コラボ戦略といった具体的な経営アクションを抽出。自グループの提案と実際の戦略を比較しながら、経営陣がなぜその戦略を選択したのか、その経営判断の背景を深く分析します。				
予習	授業内で指示します。		約2時間	
復習	授業内で指示します。		約2時間	
10. FC化戦略の効果検証				
ジョイフルが推進したフランチャイズ（FC）化戦略に焦点を当て、その財務的效果を定量的に検証します。FC化戦略の分析手法を学習した後、グループワークでFC店舗数の推移が売上構造、固定費、自己資本比率といった財務指標にどのような影響を与えたかを詳細に分析します。第1タームで自グループが提案した内容と比較しながら、FC化戦略の成功要因や限界を考察。大戸屋などの他社事例との比較分析も行い、この戦略の多角的な評価を通じて、その効果を深く理解します。				
予習	授業内で指示します。		約2時間	
復習	授業内で指示します。		約2時間	
11. デジタル化投資の効果検証				
デジタル化投資がジョイフルの経営改善に与えた効果を定量的に検証します。デジタル化投資の効果分析手法を学び、グループワークではQRオーダーシステム導入や公式アプリといった具体的な投資が、人件費削減や顧客満足度向上にどれほど貢献したかを詳細に分析します。ROI（投資対効果）も算出し、投資の効率性を評価。第1タームで自グループが提案した内容と比較することで、デジタル化戦略において予想外の効果があった点や、期待を下回った部分などを深く考察し、その多面的な影響を理解します。				
予習	授業内で指示します。		約2時間	
復習	授業内で指示します。		約2時間	
12. コラボレーション戦略・外部販売事業の効果検証				
デジタル化投資がジョイフルの経営改善に与えた効果を定量的に検証します。デジタル化投資の効果分析手法を学び、グループワークではQRオーダーシステム導入や公式アプリといった具体的な投資が、人件費削減や顧客満足度向上にどれほど貢献したかを詳細に分析します。ROI（投資対効果）も算出し、投資の効率性を評価。第1タームで自グループが提案した内容と比較することで、デジタル化戦略において予想外の効果があった点や、期待を下回った部分などを深く考察し、その多面的な影響を理解します。				
予習	授業内で指示します。		約2時間	
復習	授業内で指示します。		約2時間	
13. 財務改善効果の総合検証				
これまで個別に分析してきたFC化、外部販売、デジタル化といった全ての回復戦略が、ジョイフルの財務指標全体に与えた影響を総合的に検証します。総合検証の分析手法を学習し、グループワークでは各戦略が売上高、収益性、安全性といった主要財務指標の改善にどの程度貢献したかを定量的に分析し、その因果関係を解明します。第2タームで得られた学びを総括するとともに、第1タームで提案した自身の救済プランと実際の戦略を最終比較することで、ジョイフルのV字回復ストーリーの全体像を完成させます。				
予習	授業内で指示します。		約2時間	
復習	授業内で指示します。		約2時間	
14. 有価証券報告書精読・実際の記載事項確認				
実際の有価証券報告書を精読することで、これまでの分析内容を確認し、補完します。有価証券報告書の実務における重要性を理解し、グループワークでは自身の分析結果と、報告書の「事業の状況」や「MD&A（経営者による財政状態及び経営成績の分析）」等の実際の開示内容を照合します。報告書から経営陣の視点や将来見通しを発見し、自身の分析と比較することで、企業分析における読解スキルの向上を確認します。これにより、公開情報から企業の真の姿を読み解く能力を養います。				
予習	授業内で指示します。		約2時間	
復習	授業内で指示します。		約2時間	
15. 他社事例比較・外食産業全体の学習				
最終回では、ジョイフルの分析を相対化し、外食産業全体の動向を深く理解することを目指します。他社比較分析の手法を学習し、グループワークでは、コロナ禍で影響を受けなかった「スシロー」や、むしろ成長した「ドミノ・ピザ」の戦略を分析します。これら3社を比較することで、ジョイフルの戦略を外食産業全体の中で位置づけ、異なる業態特性が危機耐性にどのように影響するかを考察します。本講義で得た企業分析の実践知を外食産業全体に応用し、学びを最終的に総括します。				
予習	授業内で指示します。		約2時間	
復習	授業内で指示します。		約2時間	
16. 期末試験				
実施しません。				
予習				
復習				